

豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

1 事務事業の概要

1-1 事務事業の名称	福祉体育館管理事業（主要事業）								
1-2 担当	部	教育部	課 又は施設	生涯学習課	係	スポーツ係	評価票作成者	スポーツ担当係長 伊藤孝士	
1-3 総合計画における施策の体系	①節	教育文化 「個性ある文化と豊かな人間性を育むまちづくり」			③基本施策	生涯スポーツ・スポーツ振興		コード	4-2-1
	②項	生涯スポーツ・スポーツ文化			④単位施策(中)	スポーツ施設の整備・充実		コード	4-2-1-1
					⑤単位施策(小)	スポーツ施設の整備		コード	4-2-1-1-1
1-4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	スポーツを行う全ての市民		意図（対象を事務事業によってどのような状態にするのか）	市民が気軽にスポーツ活動のできる体育施設を提供する。				
1-5 事務事業の内容	体育施設を最適環境にするための維持管理を行う。 主な体育施設…体育館								

2 事務事業実施の状況

2-1 事務事業の実施における基本認識	事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み		社会状況等の事務事業がおかれる環境把握		市民ニーズの認識	
	平成18年度					
平成19年度						
平成20年度	施設を常に使用しやすい良い状態とするため、施設改修整備を行った。		生活様式の変化、健康への意識の高まりに伴い、市民のスポーツ活動への参加意欲は増大すると共に、その内容も多様化している。		施設の老朽化に伴い、改修を望む声強い。	
平成21年度	”		”		”	
平成22年度	施設を良好な状態に保つため、電気室の設備の交換及び外壁のコーキング補修を行った。					
平成23年度	施設を良好な状態に保つため、電気室の設備の交換を行った。また、バスケットコートのラインを引き直した。					
平成24年度	福祉体育館をより多くの方が利用できるようにするため、駐車場の増設工事をした。					
平成25年度						
平成26年度						
平成27年度						

2-2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名		前期目標値(単位)	後期目標値(単位)	指標の説明				
	市営体育施設(体育館)の利用者数(人)		113,000(人)	114,000(人)	施設の利用者数が市民の生涯スポーツの普及振興状況を測る指標となる。				

2-3 成果指標に係る活動実績とコストの推移(アウトプット分析)	活動実績 a (単位)	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
		直接事業費 b (千円)			17,648	16,007	17,304	37,643	41,896		
	人件費 c (千円)			1,325	1,291	1,253	1,227	1,992			
	合計コスト d (b+c) (千円)			18,973	17,298	18,557	38,870	43,888			
	単位コスト d/a (千円)	当たり	当たり	1人当たり 0.19	1人当たり 0.16	1人当たり 0.17	1人当たり 0.38	1人当たり 0.38	当たり	当たり	当たり

アウトプット実績(活動数値)の補足説明 → 直接事業費 消耗品 222千円 光熱水費 15,039千円 修繕料 3,139千円 樹木剪定・機械保守・清掃等委託料 20,130千円 営繕工事費 3,366千円
人件費 5,978千円×2/6×1人=1,992千円

2-4 成果指標に 対応する実績と達 成度の推移	指標対応実 績(人)	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
		後期目標値 に対する達 成度(%)			100,011	108,918	112,166	103,394	115,522		
				87.7	95.6	98.4	90.7	101.3			

3 ■ 事務事業の自己評価結果

3-1 評価結果 (アウトカム自己分 析)	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
単年度 担当課評価			B	B	B	B	B			

- 4段階評価結果 A : 上位目的である施策に貢献しているので継続する
 B : 事務事業の実施手法や環境(予算的・人的)に改善が必要
 C : 縮小等、事務事業としての見直しが必要
 D : 事務事業の廃止が相当
- 判断の基準 ①必要性(必要な事務事業であるか)
 ②公共性(公が実施する意味があるか)
 ③妥当性(ニーズに対して投入が適正か)
 ④効率性(結果に至る活動に無駄はないか)
 ⑤有効性(活動の結果が上位の目的に貢献しているか)
 ⑥市民満足度(事務事業が対象にしている市民を満足させているか)

3-2 評価の内容	今後の環境変化を踏まえた課題認識		次年度に向けて改善する取組み	事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価
	平成18年度			
平成19年度				
平成20年度	老朽化したスポーツ施設が多く、改修整備を計画的に行う必要がある。		改修整備の事前打ち合わせを十分にし、事業費のコスト減に努める。	安定した利用者が見込まれており、施設は有効に利用されている。
平成21年度	〃		〃	〃
平成22年度	昭和52年10月開館以来、老朽化した施設が多く、改修整備を計画的に行っている。			
平成23年度	〃			
平成24年度	体育館は、老朽化した箇所が多く毎年改修、修繕を行っている。来年度、耐震改修工事を行う際、同時に改修が行える。			
平成25年度				
平成26年度				
平成27年度				

4 ■ 事務事業の総合評価結果

4-1 総合評価の 結果	結果		審査会による改善方向の指示
	平成18年度	B	事業の必要性・緊急性を精査し、予算の範囲内で優先順位を決めて実施すること。
平成19年度	B	事業の必要性・緊急性を精査し、予算の範囲内で優先順位を決めて実施すること。	
平成20年度	B	事業の必要性・緊急性を精査し、予算の範囲内で優先順位を決めて実施すること。	
平成21年度	B	事業の必要性・緊急性を精査し、予算の範囲内で優先順位を決めて実施すること。	
平成22年度	B	事業の必要性・緊急性を精査し、予算の範囲内で優先順位を決めて実施すること。	
平成23年度	B	事業の必要性・緊急性を精査し、予算の範囲内で優先順位を決めて実施すること。民話を検討すること。	
平成24年度	B	事業の必要性・緊急性を精査し、予算の範囲内で優先順位を決めて実施すること。民話を検討すること。	
平成25年度			
平成26年度			
平成27年度			